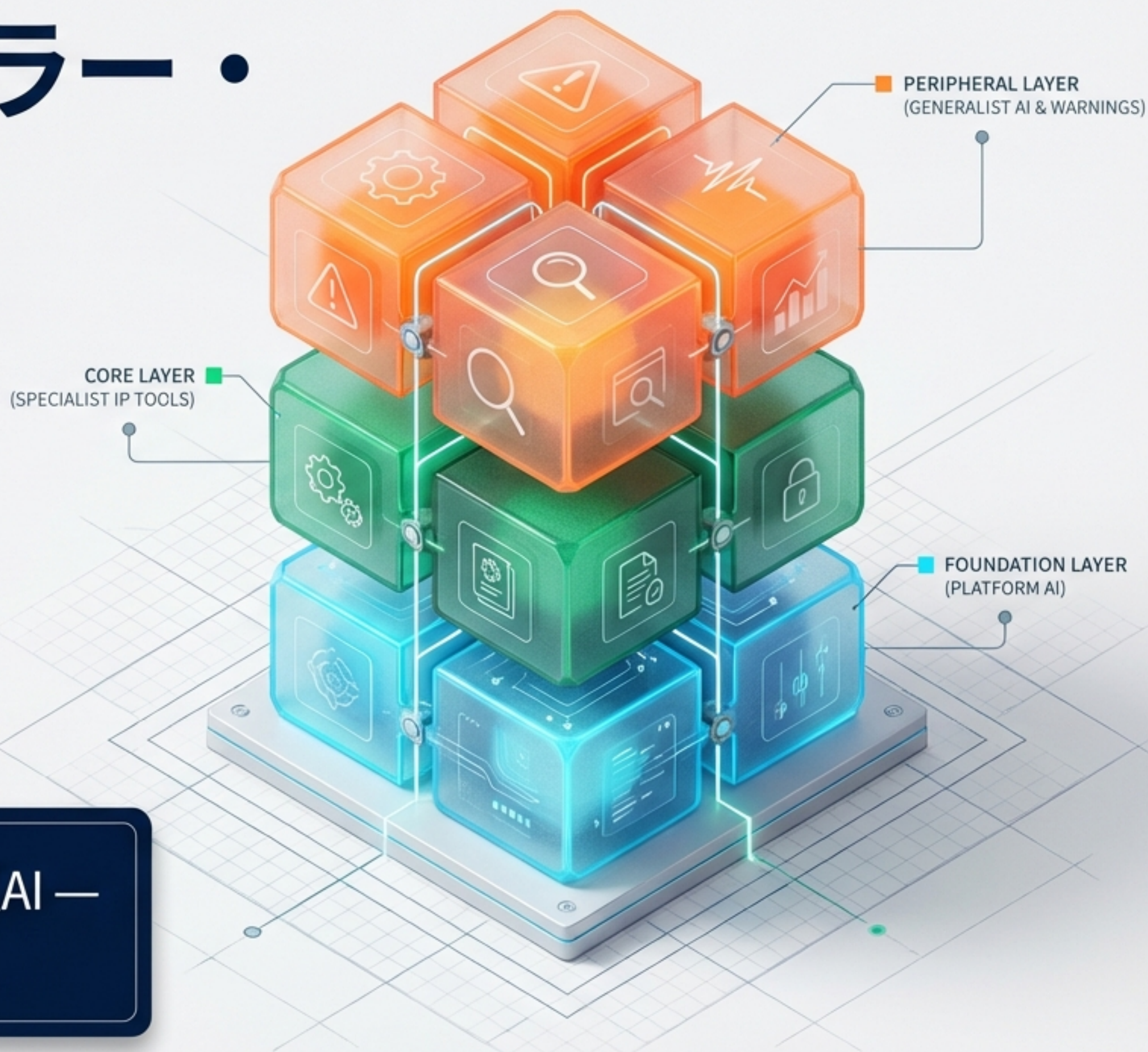


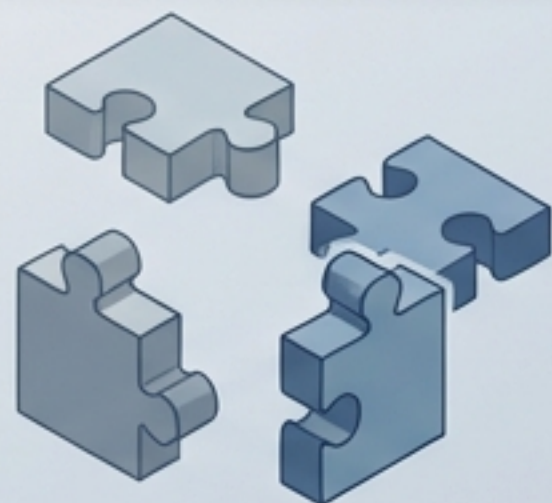
# 知財DXのモジュラー・ アーキテクチャ： 2026年の戦略的 ブループリント



Manus × Claude Code × 知財特化型AI —  
規模別・レイヤー別の最適化戦略

# 「効率化」から「価値創出」へ：知財AI時代の本格的幕開け

2025年



国産ツール急速進化

AIアクションプラン推進

2026年



アーキテクチャの最適化

マルチレイヤー統合

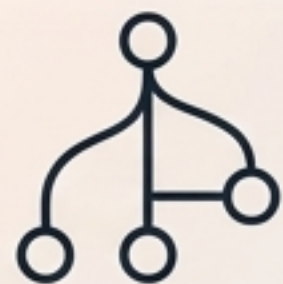
# 93.5%

## 先行技術調査時間削減

先行事例：NECのカスタムIP DXプラットフォーム構築による劇的ROI

AIは単一の「魔法の杖」ではなく、  
目的と技術力に応じた「モジュール」  
として組み合わせる時代に入った。

# 知財AIを構成する3つのコアドライバー



## Manus

汎用AIエージェント  
(Meta傘下)

The Wide Research Engine

広範な周辺調査を自動化。



## Claude Code

コーディング特化AI  
(Anthropic)

The Custom Integration Engine

独自の知財基盤を構築。  
100万トークン処理。



## 知財特化型AI

国産&海外SaaS群

The Immediate Logic Engine

即日導入可能なプロフェッショナルな判断基準。

これらは排他的な選択肢ではなく、知財システムの異なるレイヤーを担うコンポーネントである。

# Manus：周辺調査には強力だが、知財コア業務には致命的な制約



## Wide Research機能

- 数百のデータポイントを自律的に並列処理

コスト：月額 \$20～\$200



### 約70%のペイウォールに阻害

Derwent、Orbit、PatSeerなど  
専門DBとの直接連携不可。



### ハルシネーション・リスク

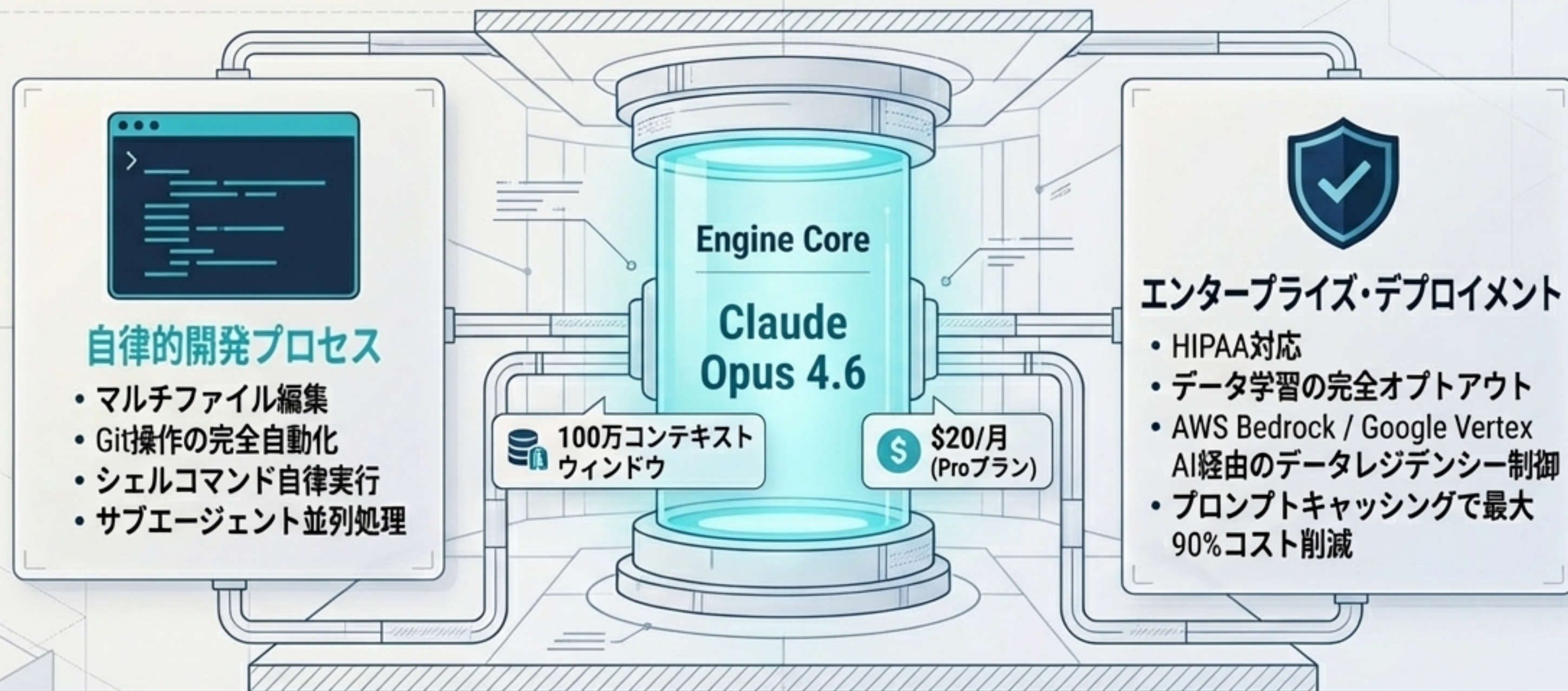
Stanford研究で法律特化AIでも  
17～33%のエラー率。汎用型の  
Manusはさらに高リスク。



### セキュリティ構造の矛盾

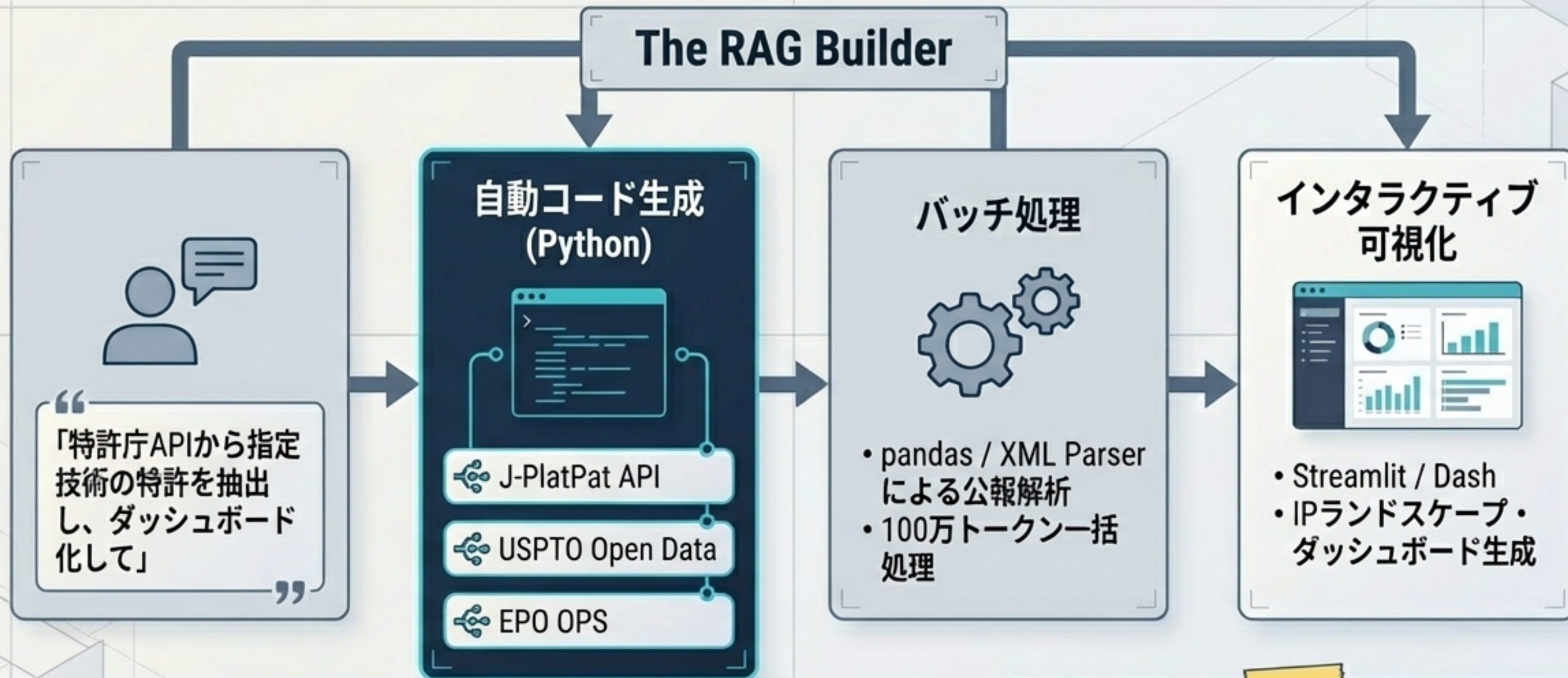
SOC 2未認証。全タスクがリプレ  
イシステムに記録される仕様。  
出願前の機密情報入力厳禁。

# Claude Code : 外部開発不要で独自の知財DX基盤を構築する



**Takeaway:** 非エンジニア（法務担当者）でも、自律的にAPI接続やバッチ処理基盤を構築できる特異なプラットフォーム。

# Claude Codeによるカスタム分析パイプラインの構築例





**Note:** 2026年6月開催の「Code with Claude」等、非エンジニア向け環境が急速に整備中。


# 知財特化型AI：導入即日から機能する「プロフェッショナル・ロジック」


## Domestic (国産ツール群)


強み：特許庁API直結・日本語実務特化

 **Patentfield AIR**  
4機能統合, 最大1万件一括分析 (2万円~)

 **AI Samurai**  
世界唯一の特許性判定S-Dランク, 拒絶理由対応


 **Genzo AI**  
島津製作所の暗黙知実装, 明細書作業50%減

 **Summaria**  
読解支援・クレームツリー生成 (満足度83%)


 **Tokkyo.Ai**  
Deep Research搭載AIエージェント (1.5万円~)

## Global (海外ツール群)

強み：圧倒的なデータ量とグローバル網羅性

 **PatSnap Eureka**  
ドメイン特化LLM (汎用LLM+60%精度)

 **LexisNexis PatentSight+**  
PAI(特許価値評価)とAIアシスタント

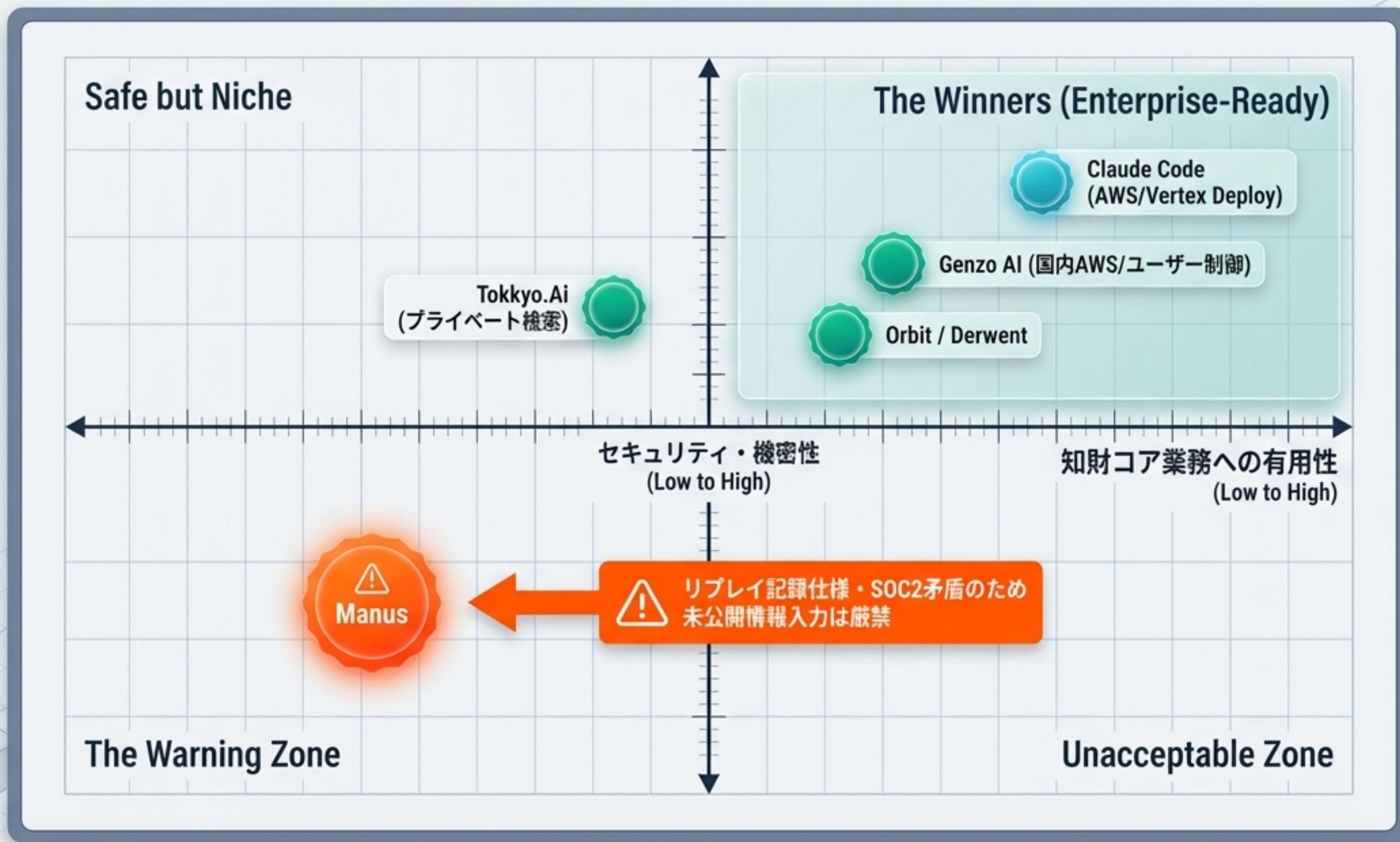
 **Clarivate Derwent**  
6,700万件の高品質要約データ (DWPI)

# 目的別・機能別AIツール・ヒートマップ

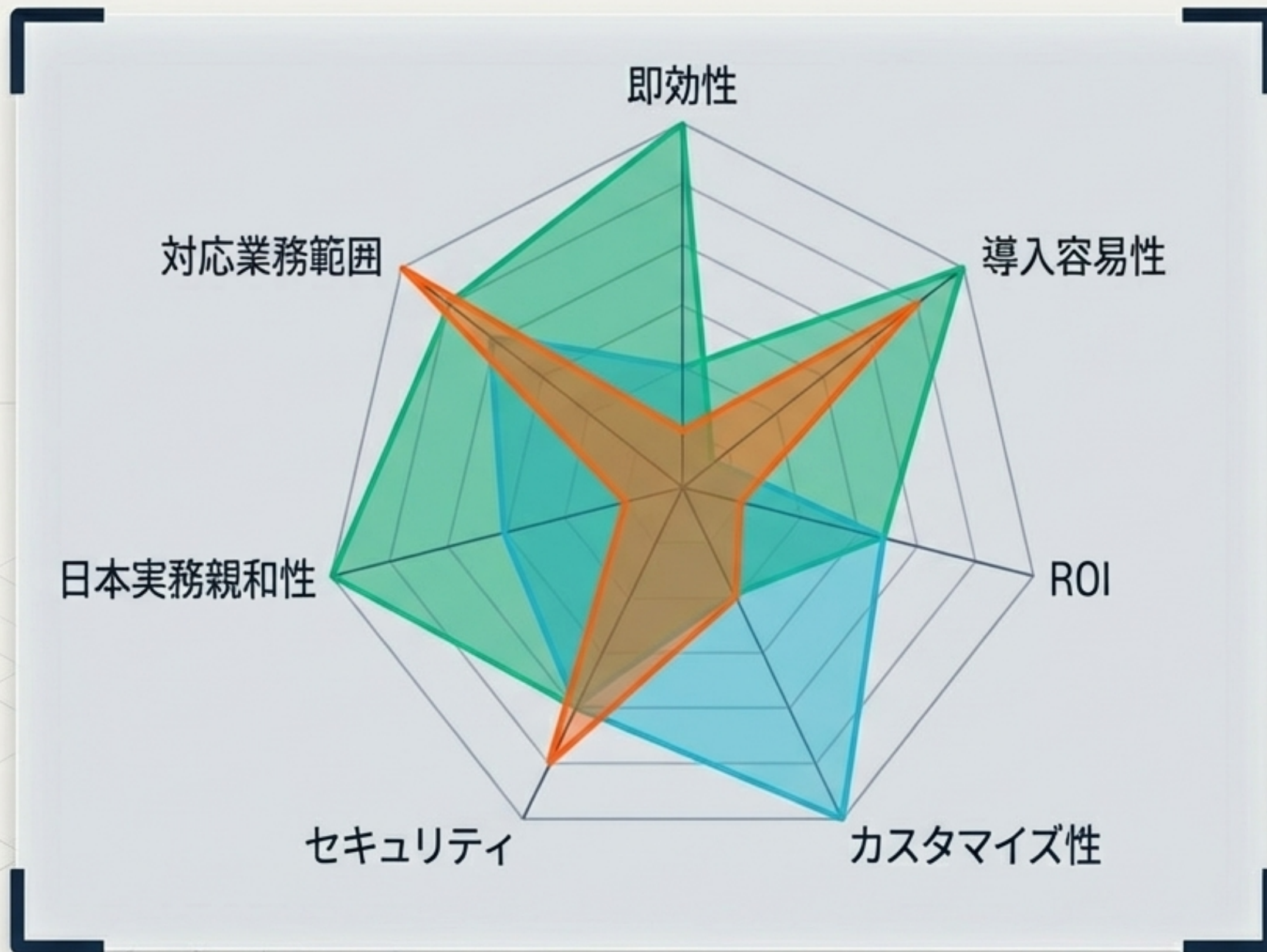
	特許調査	明細書	FTO	ランドスケープ
Patentfield	◎	△	○	◎
AI Samurai	◎	◎	○	△
Genzo AI	○	◎	◎	△
Summaria	△	△	◎	△
Tokkyo.Ai	○	○	△	△
PatSnap	◎	○	○	◎
Orbit	◎	○	◎	◎
PatentSight+	○	×	○	◎
Derwent	◎	×	◎	◎

分析：国産ツールは「明細書作成・実務対応」に強みを持ち、海外ツールは「グローバルランドスケープ」で圧倒的優位。

# 最重要基準：「セキュリティ・ガバナンス」と「知財業務価値」の相関



# 3大アプローチの特性プロファイル (7軸評価)

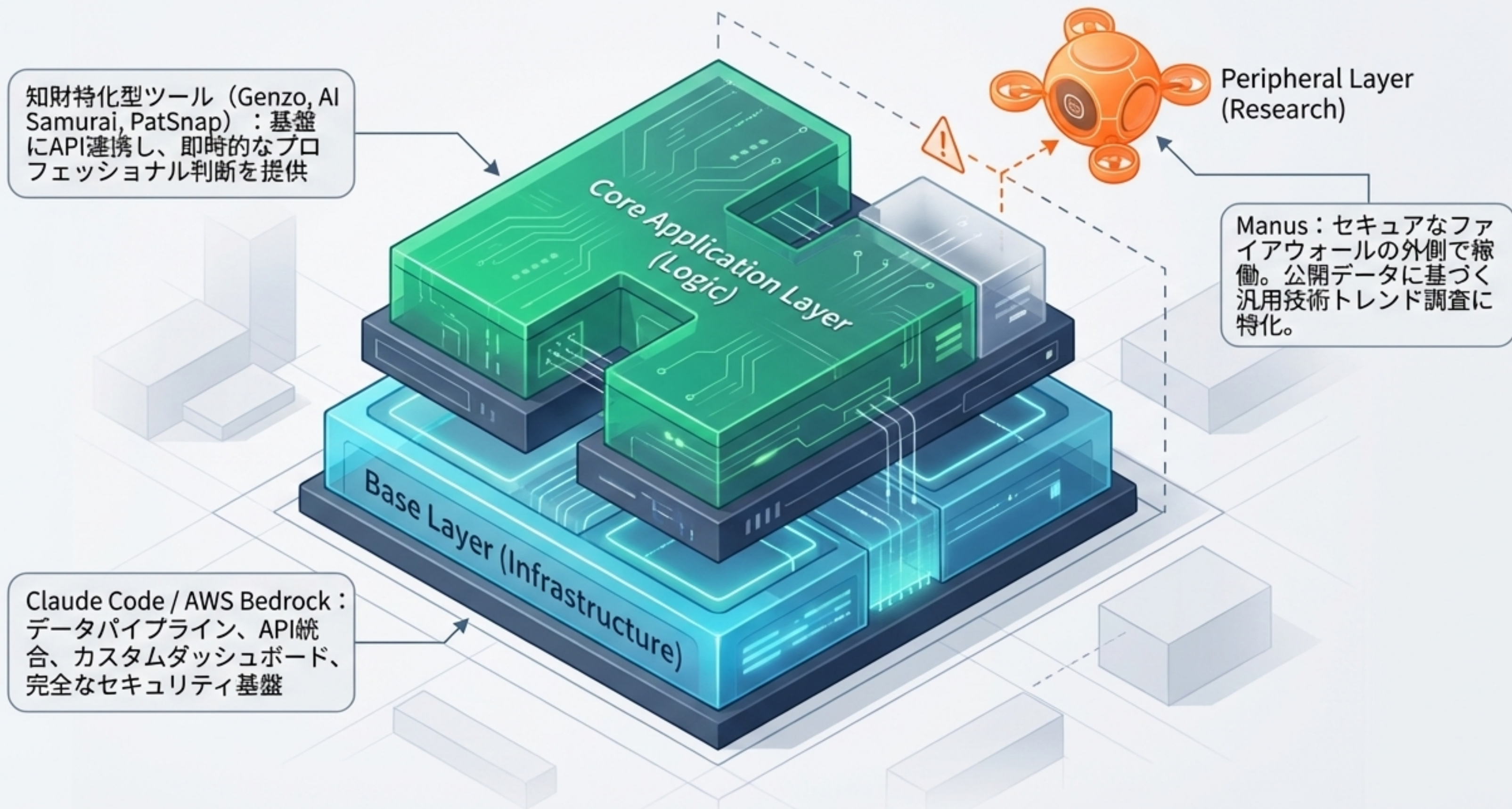


- 知財特化型AI
- Claude Code
- Manus



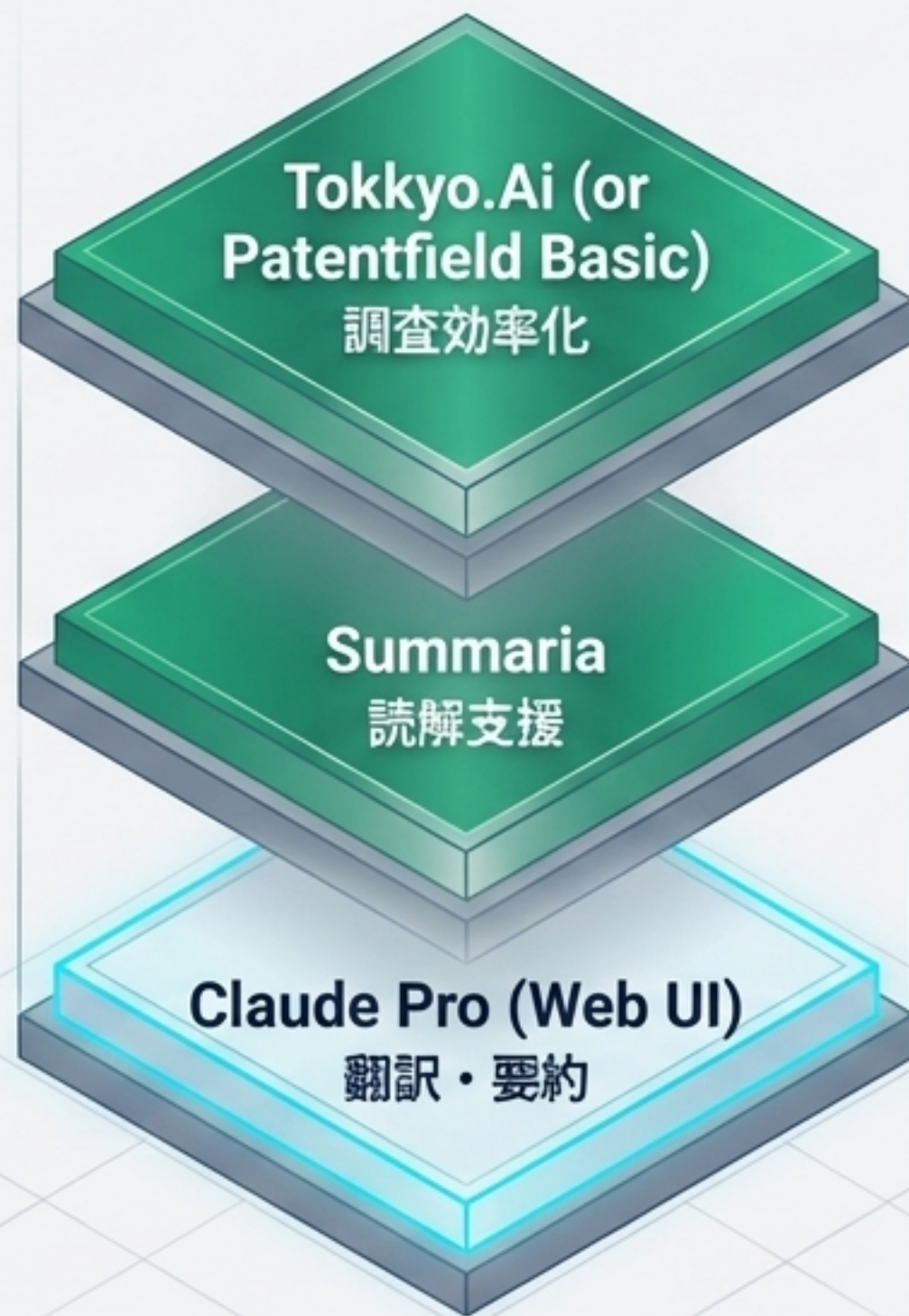
考察：Claude Codeの「即効性」は低いですが、構築後の圧倒的な「カスタマイズ性」と「セキュリティ」が初期投資を相殺する。

# 知財DXの最終形態：ハイブリッド・インターロッキング・システム



# インベストメント・プレイブック：小規模部門（1～5名）

## 「即効性優先」パターン



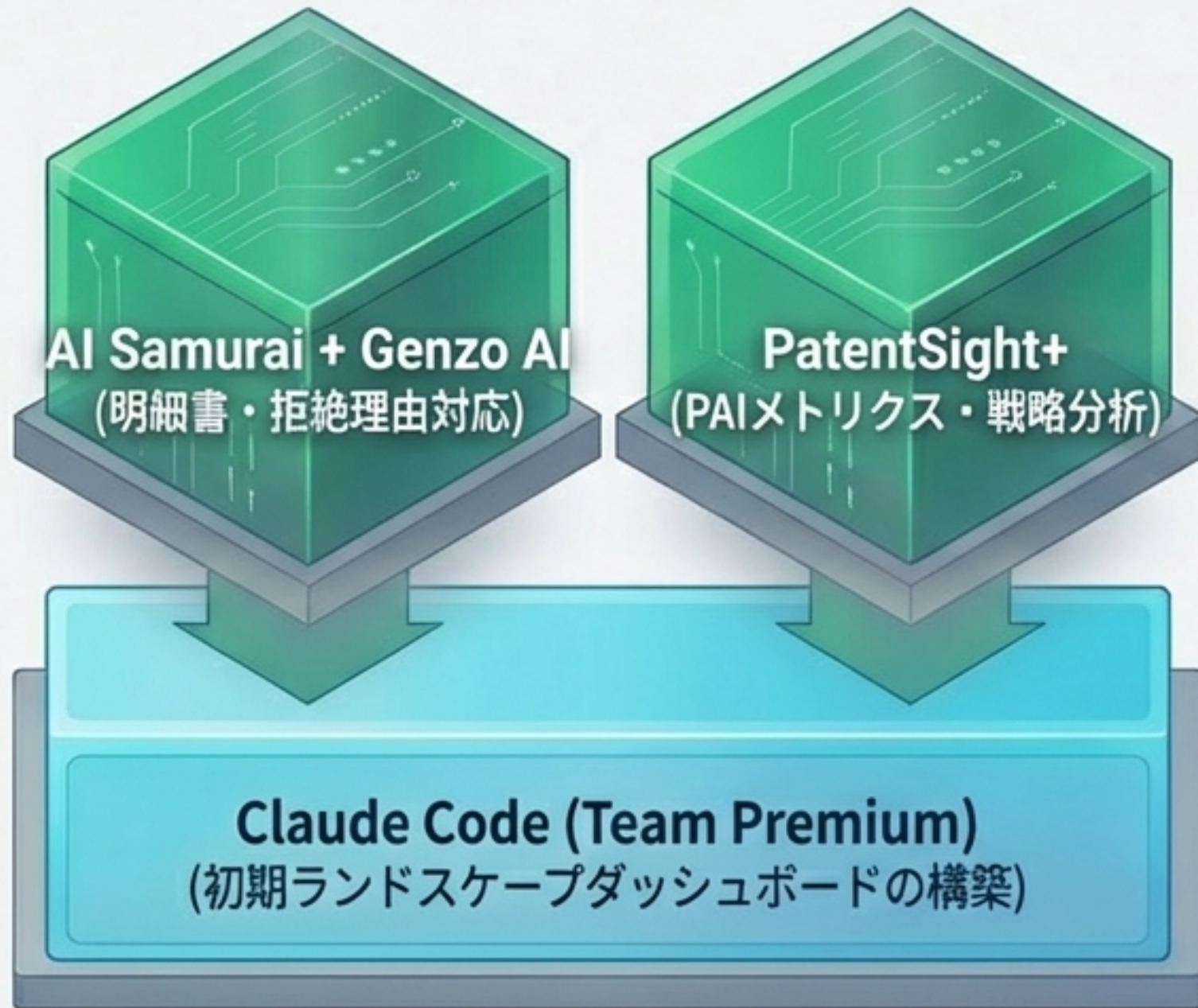
年間予算目安：  
50万～150万円

## 戦略ノート

リソースが限られるため、SaaS型知財特化ツールの即時導入を最優先とする。  
カスタム開発（Claude Code）は見送り、Web UIでの利用に留める。  
Manusは技術動向の概要調査のみに限定し、機密情報の入力を行わない。

# インベストメント・プレイブック：中規模部門（5～20名）

## 「ハイブリッド」パターン



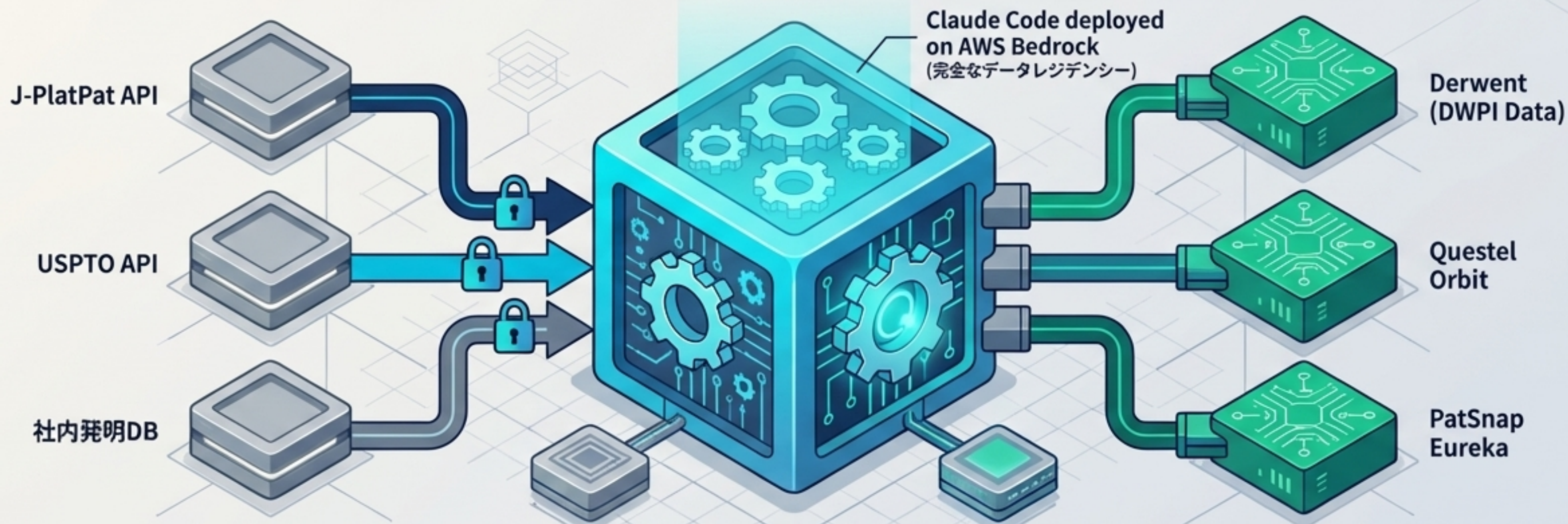
年間予算目安：  
300万～1,500万円

## 戦略ノート

専門ツールの本格導入と並行し、IT部門との連携を開始する。Claude Code (\$100-\$125/seat) を用いて、自社固有の特許データパイプラインとカスタム分析ダッシュボードの構築に着手し、将来のプラットフォーム化への布石を打つ。

# インベストメント・プレイブック：大規模部門（20名以上）

## 「プラットフォーム構築」パターン（NEC方式）



年間予算目安：  
2,000万～5,000万円以上  
(開発費含む)

### 戦略ノート

SaaSのサイロ化から脱却する。外部ツールに依存せず、API経由で最高峰のグローバルデータソースを自社のRAG環境に直接統合する。部門全体の知能を一つのセキュアなプラットフォームに集約するアプローチ。

# 2029年を見据えたデータガバナンスと次の一手

2029年1月：J-PlatPat 大幅刷新  
(3,000→30,000件上限拡大、AI検索支援)



## 1. 入力データの明文化

出願前発明情報等の入力可否を厳格に定義。(新規性喪失は不可逆)

## 2. オプトアウトの徹底確認

エンタープライズAPI (AWS上のClaude等) を利用したゼロデータ保持ポリシーの確保。

## 3. 機密レベル別ツールポリシー

パブリックな動向調査 (Manus可) と、コアな明細書作成・解析 (Manus禁止、Genzo/Claude:必須) を完全分離するマトリクス運用。

**Closing Takeaway: ツール選定はもはや単なる技術的判断ではない。  
知財部門の将来像を規定する「経営判断」である。**